



道しるべ

《人と自然にやさしい里づくり 住み続けたい亀ヶ森》

発行 亀ヶ森地区

コミュニティ会議

〒028-3204

花巻市大迫町亀ヶ森 8-24-8

平成 27 年 2 月 No. 52

**花巻市の交付基準が変わります。
早め早めの対応をお願いします。**

市が地域づくり交付金の取り扱いを見直したことにより従来通りの一〇〇%支給ができなくなりました。

自治公民館に対するコミュニティからの補助は二分の一以内(半額は公民館負担)、ただし、自主防災活動に関わる九項目の経費を除く。

各自治公民館は二月段階で二七年度事業計画及び交付金請求の有無の報告をお願いします。(具体的事項はご質問願います)

今後は、コミュニティ会議事業も公民館事業も年間計画に基づく予算執行が求められる、計画段階から吟味しなければなりません。

年間事業のまとめと

次年度計画立案の時期

二月は年間事業の反省と次年度計画立案をします。

近々、コミュニティ三役会議で一次検討をして幹事会を開きます。

各部長さんは担当事業について実施度合、反省と来年度への方向性をまとめて置くようお願いいたします。

『宮沢遺跡・土偶について』

講師 花巻市学芸調査員

中村 良幸氏

亀林会主催の郷土史学習会が二月十一日に大迫活性化センターに五四名が参加して開催された。その一こまを紹介する。

この土偶(高さ二〇センチ程度、ほぼ完全)は、宮沢の草地造成中に発見され、県立博物館開館記念岩手の日本展に出品された。

氷河期に人間は大型動物を追って、大陸から渡り日本列島に住みついた。その後、気候の変動に伴う植相の変化に合わせて食物を変えて生きて来た。そのため、土器、石器、落とし穴などが工夫された。これが縄文文化である。宮沢出土の土偶は縄文晩期の土器である。

亀ヶ森の遺跡の地図を見ると稗貫川の両岸に多数分布しており、年代や特徴から多くのことが読み取れる。宮沢の土偶はこれらから離れた山頂近くから発見され祭祀に使われたとみられること、途中の田畑や沢から土器片や矢尻が見つかることなどから真相の解明には他の遺跡とのつながりの検討、宮

沢地内の低地から山頂までの連続的発掘調査をする必要がある。

聴講した感想(会長 高橋)

宮沢遺跡はほとんど未調査であり、亀ヶ森の遺跡の総合的解明につながるかもしれない、保存の価値が高いと思う。

地区ボーリング大会・綱引き大会開催

一月十八日(日)花巻「レジャ丸」を会場に、地区ボーリング大会が開催されました。結果は次の通りです。

【団体の部】

優勝 二区一 一六七P 二位 五区 一〇六三P 三位 一区一〇二四P

【個人の部】

優勝 高橋 渉(六区)三七五P 二位 久保田 禎(一区)三四六P 三位 伊藤文隆(二区) 二二二P

また、二月八日(日)には、第三十一次地区綱引き大会が開催されました。結果は以下の通りです。

【男子の部】

優勝 二区五勝 準優勝 一区四勝 一敗 三位 三区三勝二敗

【女子の部】

優勝 二区二勝 準優勝 四区一勝 一敗 三位 三区二敗